

宗教にとって科学技術とは何か ——人格概念の再考——

芦名定道

<内容>

1. はじめに
2. 現代の科学技術がもたらしたもの——人格概念再考
3. 人間・人格とは何者か、その両義性
4. むすび

1. はじめに

1. 「科学（技術）と宗教との関わりの歴史」
科学技術と宗教の対立図式／両者の分離・無関係論
2. 第三の道の可能性を探る。
3. 焦点としての「人間」「人間理解」
遺伝子工学、脳科学などの成果は、近代的な人格概念に大きな変更をせまるものが目立つように思われる。これは、伝統的な宗教にとって、その人間理解・人格概念を再考する機会となるのではないだろうか。

2. 現代の科学技術がもたらしたもの ——人格概念再考

4. 遺伝子工学、たとえばクローン技術（1996年のクローン羊ドリーの誕生）は、キリスト教思想にも大きな衝撃をもたらした。
5. キリスト教思想におけるクローン技術への対応は、次の三つに大別できる。
ラムジーらによるヒトクローンへの反対論（「神を演じてはならない」）／フレッチャーらによる賛成論（「神を演じよう！」）／テッド・ピータースらの立場（反対派と賛成派の中間。果たして「神を演じているのか」）。
（金承哲『神と遺伝子——遺伝子工学時代におけるキリスト教』教文館、2009年。）
6. 反対派：クローン技術は「神を演じる」不遜な行為であり、神が制定した境界（自然の秩序）を踏み越えることは許されないということ、
そして、クローン技術を人間に万一適応することが企てられるならば、それは「人間の尊厳」を冒瀆するものであること。
7. 反対派の第二の論点。この背後には、人間のアイデンティティがその遺伝子（DNA）によって決定されるとの考えが存在する。
この主張は、科学的に、そして何よりも、キリスト教的に根拠があるか？
8. 「人間の尊厳」という近代的な言説。近代的な人間理解（個の実体としての人格性・魂あるいはそれと密接に関わる、自律性、主体性、自由意志などの特性）はキリスト教にとって妥当なものだったのか。
9. キリスト教の人間理解がそもそもいかなるものであったのかについての再考を促す。
10. 「人間の尊厳」や「魂」とDNAと同一視するような「自然的な実体化」そして「遺

「伝子決定論」は神学的にも間違っており、人間のアイデンティティや尊厳は、人間と神の関係において捉えるべきもの、つまり、魂とは、人間の自然的属性ではなく、神との関係における人間を意味しているという論点。

11. 人格とは、個性であるとともに、あるいはそれに先だってまず関係性において、他者との関わりによってもたらされる贈与として理解されるべき。(コミュニケーションの能力としての人格性。)

3. 人間・人格とは何者か、その両義性

12. 科学技術と聖書とは必ずしも矛盾するものではなく、むしろいくつかの基本的な点で両者は一致。
13. 科学技術は人間の本質に関わるものであり、人間にとって善にも悪にも用いることができる、この科学技術の善と悪の両義性は、それを使用する人間存在の両義性に遡及する。
- 1) 聖書の人間理解。創造の善性(創世記1章: 神の被造物は善である)と罪(創世記3章)との両義的存在としての人間。創世記2章のアダムの役割(土を耕し、動物に命名する → 科学、技術は人間の原初的営み)
- 2) 人間の心をめぐる、社会心理学や脳科学の知見は、人間が両義的存在であることを示している。一方で、母子関係を典型とする基礎的人間関係(無条件の存在肯定や基本的信頼)は人間の社会性の基層をなしているが、他方で、ミルグラム実験やスタンフォード監獄実験といった社会心理学の研究は人間の本質的にきわめて脆弱な倫理観と、人間が無意味に保守的な傾向を持った生き物であることを示している。
(藤井直敬『ソーシャルブレインズ入門——〈社会脳〉って何だろう』講談社現代新書、2010年。)

4. むすび

14. 宗教研究に求められるのは、他の研究分野の研究者と人間への眼差し・関心を共有すること。
15. 「科学には不可能で宗教でなければできないこと」から、「宗教が他のものと共有するもの」に注意を払うこと。この共有する地点から、宗教研究は再び独自の道を進み始めることができる。

< 関連文献 >

芦名定道: 連載「現代神学の冒険——新しい海図を求めて」(新教出版社『福音と世界』)

- ・ 「「科学技術の神学」系とは何か」 (2018.4)
- ・ 「生命の神学1 — 脳死・臓器移植の問題を検証する」 (2018.5)
- ・ 「生命の神学2 — 遺伝子工学の挑戦」 (2018.6)
- ・ 「生命の神学3 — 環境倫理と動物倫理」 (2018.7)
- ・ 「心の神学1 — 脳・心・キリスト教神学」 (2018.9)
- ・ 「心の神学2 — 心を科学する時代」 (2018.10)
- ・ 「原子力の神学 — 原爆と原発」 (2018.11)